

角田市アジアの農民と手をつなぐ会

Kakuda Asian Farmers Friendship Forum

【地球は水の星、米は楕円形の宇宙】

1990年1月、アジア5カ国の農民参加のもと、農業・農民の「自立と共生」をテーマにアジアモンスーン稲作農民炉ばたまつりを開催しました。これを契機にアジア地域、特にタイ国の農村、農民の自立に向けた交流支援事業を展開しています。

一連の交流支援活動を実践していく過程で、農村社会に生きる自身の農業、地域のあり方を常に意識しながら、お互いが共に向上していくことを目指し、またアジア地域の農村、農民の自立活動を支援することにより、日本の農民の国際貢献に対する意識の向上を図ることも目的としています。

【主な活動内容】

タイ東北部（イサーン地方）の農村開発支援事業

- ・拠点となる研修センター建設支援
- ・加工施設建設支援
- ・縫製工場設備支援

（関連として地元高校生徒会により足踏みミシン 42 台も贈呈されている）

- ・農業指導

以上は平成7年度、8年度、9年度、国際ボランティア貯金の寄附金を活用

- ・人材育成事業（現地スタッフを角田へ招聘）
- ・イサーン物産の展示即売
- ・人材育成のための招聘事業

タイ北部山岳少数民族の農村開発支援

- ・活動の拠点となる研修農場建設支援
- ・中学生兼農場スタッフ寮建設支援
- ・畜舎（鶏舎、豚舎）建設支援
- ・トラクター導入支援
- ・農業指導

以上は、平成11年度、12年度、国際ボランティア貯金の寄附金を活用

関連として、東北学院仙台同窓会より、「北タイ山岳少数民族の子どもたちの自立のために」と募金活動で集まった善意の30万円を預かり、クリスマスプレゼントとして現地に直接贈呈する。

訪問交流（スタディツアー）

J I C A (国際協力事業団) 研修員の農家実習受入れ

J A 祭等での活動 P R

機関紙の発行

【活動のひとこま】

タイ東部のウエンノイ郡 ノンドゥ村では村の女性たちによる縫製工場が軌道に乗っています。これは一連の支援事業と角田の高校生たちが使用されていない足踏みミシン 42 台を村の自立に役立ててもらおうと、3 年前に贈ったことから機能がより整備されたものです。これにより現地では伝統的な草木染めと機織りに加え縫製加工も可能となり、原料から製品づくりまで一貫した取り組みが可能となりました。現在では村に就労の場ができたことから出稼ぎが減り、現金収入も大幅に増え、村の自立へ大きな効果を上げています。

平成 11 年度に続き、12 年度においても J I C A 研修員 (10 ヶ月間の稲作研修のため中南米、中近東、アフリカ、大洋州、アジア等の諸国から来日) のカリキュラムの一環として農家実習を受け入れています。この 2 年で 18 カ国 19 人の研修員の方々と交流を持つことができました。

「角田市アジアの農民と手をつなぐ会」

〔現在までの活動状況〕

〔現在までの活動経過（内容）〕

- | | |
|---|---------------|
| (1) 角田市農協青年部主催による「アジアモンスーン稲作農民炉ばたまつり」開催
* アジア 5 カ国の農民参加のもと、農民の「自立と共生」をテーマにシンポジウム等を開催。タイ・イサーン地域の現状を知る。 | 90年1月 |
| (2) 青年部盟友 2 名がタイ・イサーン地域を交流訪問
* イサーン地域の現状を自分の目で見るために訪問。 | 90年3月 |
| (3) 青年部盟友 2 名がタイ・イサーン交流訪問
* 現状やそれに対する農民、ネルダ（現地 N G O 組織）の取り組みを確認するために訪問。
* 研修農場支援のため、全国キャンペーンを検討。 | 91年1月 |
| (4) タイ・イサーンの農民へ「農業学校」を贈る全国キャンペーン（生きるための共育農場）の展開 | 91年6月
~12月 |
| (5) 青年部盟友 2 名がタイで開催された「アジアモンスーンファーマーズセミナー」に参加
* キャンペーンに寄せられた建設資金の目録を贈呈。
(2月に現地へ送金) | 92年1月 |
| 〔資金運用〕
セミナーハウスの建設、水路掘削、養魚用及び野菜の灌漑用池の掘削、地鶏、地豚、牛等家畜の導入、果樹と多年性植物の植栽、センター（農場）の諸経費等。
* 残金は基金として積立て、基金運営委員会で管理。 | |
| (6) 青年部盟友 1 名が現地農場を交流訪問
* 共育農場の進捗状況を確認するために訪問。 | 93年1月 |
| (7) 現地農民及びネルダスタッフ参加のもと「共育農場報告会」を角田で開催
* 席上、タイとの交流関係の組織を、角田市農協青年部から角田市農協「アジアの農民と手をつなぐ会」へ移行することを承認 | 93年3月 |
| (8) 「手をつなぐ会」の世話人兼青年部盟友 10 名が現地を交流訪問
* タイの米事情視察を兼ね、村人との交流やその後の進展状況、内容把握のために訪問。 | 94年1月 |
| (9) 「手をつなぐ会全体交流会」を角田で開催 | 94年1月 |

<p>* 現地交流訪問の報告と今後の交流の考え方を整理。</p> <p>(10) 「手をつなぐ会」の世話人6名が現地訪問</p> <p>* 今後の交流支援方策等について、現地農民、ネルダスタッフと意見交換</p>	95年1月
<p>(11) 現地訪問報告会を開催</p> <p>* 小松光一先生の講演後、現地での意見交換等の報告。席上、国際ボランティア貯金へ95年度の援助事業の配分申請を行うことを決定。申請書提出</p>	95年3月
<p>(12) 郵政省より95年度の「国際ボランティア貯金」配分団体の認可を受ける。配分金額 236万円</p> <p>〔援助事業内容〕</p> <p>農民のための研修農場の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池掘り・植林・畜舎、堆肥舎設置・家畜の導入・農具の供与 ・農村女性の収入向上支援 ・ミシンの導入 ・専門家派遣 ・農業技術指導 	95年6月
<p>(13) 「手をつなぐ会」世話人2名と小松先生が現地を訪問</p> <p>* 援助事業の詳細についてネルダと協議 援助事業の実施</p>	95年8月
<p>(14) 角田市農協際において「タイ・イサーンコーナー」を設置</p> <p>* 地域住民に国際ボランティア貯金及び95年度援助事業等「手をつなぐ会」の一連の活動の意義や理解を得るべく、タイ人4名を招きながら、イサーンの物産展示即売、イサーンの子供達の絵の展示、タイ料理の試食会、ビデオ放映、活動状況のパネル等を展示、紹介する。</p>	95年11月
<p>(15) 援助事業の一環として、農業指導のため専門家（角田の農業者）を現地へ派遣（2週間）</p> <p>* 堆肥づくり（土づくり）や野菜の栽培管理等の技術指導に加え事業全般の管理・調整にあたる。</p>	96年1月
<p>(16) 専門家派遣報告会を開催</p> <p>* 小松光一先生からの援助事業を含めた情勢講演、派遣員からの報告後、意見交換。席上、96年度も「国際ボランティア貯金」へ、援助事業費の配分申請を行うことを決定。申請書提出</p>	96年3月
<p>(17) 郵政省より96年度の「国際ボランティア貯金」配分団体の認可を受ける。配分金額 366万4千円</p> <p>〔援助事業内容〕</p>	96年6月

<p>農民のための農産物加工施設等の建設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農具・種苗・図書室・会議室・食堂、厨房・トイレ、水浴び場 ・道路、駐車場・容器、梱包設備・防虫薬草生産設備・果物加工設備・鶏解体、加工設備・冷蔵設備・薬草加工設備 <p>専門家派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業技術指導 	
<p>(18) 角田市農協際において「タイ・イサーンコーナー」を設置、及び全体交流会を開催</p> <p>* 地域住民にタイのイサーン地方や「手をつなぐ会」の一連の活動を紹介。全体交流会では、タイ国環境庁の局長以下4名を交え、相互交流をテーマに今後の交流のあり方を模索。</p>	96年11月
<p>(19) 援助事業の一環として、農業指導のため専門家(角田の農業者)を現地へ派遣(2週間)</p> <p>* 堆肥づくり(土づくり)の必要性や協同組合運動の理念を伝える。また、95年度援助事業の成果や96年度援助事業の進捗状況の確認と事業全般の管理・調整にあたる。</p>	97年1月
<p>(20) 国際ボランティア貯金NGO活動状況報告会へ参加</p> <p>* 小松光一先生の基調講演後、1月に実施した専門家派遣の内容及び現地の状況をスライドを用いて報告。</p>	97年2月
<p>(21) 郵政省へ97年度ボランティア貯金配分申請書提出</p>	97年3月
<p>(22) 郵政省より97年度の「国際ボランティア貯金」配分団体の認可を受ける。配分金額 373万9千円</p> <p>[援助事業内容]</p> <p>農民の自立のための地域農業学習センター建設(6カ所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設整備建設・トイレ、水浴び場整備建設・学習資材導入 ・用水路、電力設備整備 <p>専門家派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業技術指導等 	97年6月
<p>(23) 伊具高校及び角田女子高校生徒会による「足踏みミシンをタイ・イサーンの農村女性に贈ろう」運動の検討</p>	97年8月
<p>(24) 「足踏みミシンをタイ・イサーンの農村女性に贈ろう」募金展開</p> <p>* 伊具高校及び角田女子高校文化祭にて</p>	97年9月
<p>(25) 角田市農協際において「タイ・イサーンコーナー」を設置</p> <p>* 地域住民にタイのイサーン地方や「手をつなぐ会」の一連の活動を紹介。特に伊具高校及び角田女子高校のミシン贈呈に係る応援キャンペーンとして、「チャリティータイフードレストラ</p>	97年11月

ン」を開設、角田女高校生徒会による募金も合わせて展開	
(26) イサーン地域のNGO組織ネルダより中心スタッフ1名を角田へ招聘 * 11月22日～98年1月11日までの約50日間、手をつなぐ会で受入れ、この間角田の農業や農村生活、農協について勉強する。	97年11月
(27) 関係者及びネルダスタッフ立会いのもと足踏みミシン計42台を贈る出発式開催	97年11月
(28) 援助事業の一環として、農業指導のため専門家(角田の農業者)を現地へ派遣(2名)。同時にJ A角田市35周年企画「タイ・イサーン交流訪問ツアー」を開催。 * 専門家派遣では、農機具の点検・整備の仕方や園芸作物の栽培基本管理等の指導に加え、今までの援助事業の成果や97年度援助事業の進捗状況の確認と事業全般の管理・調整にあたる。また、今後の取り組み等について、広く意見交換をする。 * 「タイ・イサーン訪問交流ツアー」では、農協理事、市収入役、手をつなぐ会世話人及び農家組合員が参加。農家に泊まりながら、現地の生活・文化に触れ、理解を深めると共に親交も深める。	98年1月
(29) 贈呈足踏みミシン現地到着 * 専門家派遣現地滞在中確認	98年1月
(30) 「タイ・イサーン訪問交流ツアー」の反省会開催 * 小松光一先生を招きながら、「アジア経済の現状」を勉強後、意見交換及び懇親会	98年2月
(31) 仙南7農協(9市町村)の合併に伴い、名称をみやぎ仙南農協「角田市アジアの農民と手をつなぐ会」へ変更	98年4月
(32) 宮城県中央会による第1回オリザ賞の交流の部大賞を受賞。 * オリザ賞 河北新報社の連載企画・「オリザ(稲作)の環」が提起した交流や地域づくりを軸に開かれた米づくりを内外に広めようと、県中央会が農協発足50周年を記念に創設。河北新報社、東北放送が後援、3年に1度の実施。	98年4月
(33) 援助事業の一環として、農業土木技術指導(底の抜けないため池づくり)のため、専門家を現地へ派遣する。 岩手大学名誉教授(前農学部長) 石川武男 氏 岩手大学農学部教授 馬場秀和 氏 お茶の水女子大講師 小松光一 氏	98年7月

<p>* 現地では、村人を始めネルダスタッフを対象に、ため池づくり全般の講義と、実際に岩大工法（人力足踏み転圧法）によるため池を試作する。今後も調査と対処法の検討を継続。</p>	
<p>(34) みやぎ仙南角田地区農協際において「タイ・イサーンコーナー」を設置。</p> <p>* 地元高校生参加のもと、活動をPR イサーン物産（草木染め・機織り・縫製品）展示即売 タイ北部少数民族民族支援のための写真パネル展示（募金） チャリティータイフード（トム・ヤン・クン）</p>	98年11月
<p>(35) イサーン地域のNGO組織ネルダより縫製事業部門の責任者1名を招聘。</p> <p>* 12月10日～99年1月31日までの約50日間、手をつなぐ会で受入れ、この間角田の農村や生活、日本の縫製関係（デザイン等）を勉強。</p>	98年12月
<p>(36) 98年7月に実施した農業土木技術指導（底の抜けないため池づくり指導）の報告会を兼ね、農業フォーラム（アジアの中の日本農業～稲作農業の明日を考える～）並びに交流会を開催。</p> <p>* 講師に岩手大学名誉教授石川武男先生、同大学農学部教授馬場先生、当会相談役でもあるお茶の水女子大講師小松光一先生を招く。</p>	98年12月
<p>(37) JICA（国際協力事業団）より、99年6月に農業研修員の受入れ依頼。</p>	99年2月
<p>(38) 郵政省へ99年度ボランティア貯金配分申請書提出</p>	99年3月
<p>(39) JICA（国際協力事業団）農業研修員の農家実習受入れ 中近東・アフリカ諸国8カ国の9名</p>	99年6月
<p>(40) イサーン地域のNGO組織ネルダよりスタッフ1名来角</p>	99年6月
<p>(41) 郵政省より99年度の「国際ボランティア貯金」配分団体の認可を受ける。配分金額 261万9千円</p> <p>〔援助事業内容〕 山岳少数民族のための農業研修施設の建設等〔タイ〕 ・畜舎建設（2棟）、学生兼スタッフ寮建設 ・耕運機購入 ・専門家派遣 ・農業技術指導等</p>	99年6月
<p>(42) 会の名称を「角田市アジアの農民と手をつなぐ会」へ変更する。</p>	99年6月
<p>(43) みやぎ仙南角田地区農協際においてタイを中心とした国際交流コ</p>	99年11月

<p>ーナーを設置。</p> <p>* 地域住民に「手をつなぐ会」の一連の活動を紹介PR。</p> <p>イサーン物産（草木染め・機織り・縫製品）展示即売</p> <p>JICA写真パネル展示</p> <p>チャリティータイフード（トム・ヤン・クン）</p>	
<p>(44) 東北学院仙台同窓会より、「北タイ山岳少数民族の子どもたちの自立のために」と募金活動で集まった善意の30万円を預かり、クリスマスプレゼントとして現地にて直接贈呈する。</p>	99年12月
<p>(45) 北タイ山岳民の援助事業の一環として、農業指導のため当会の会員（農業者）を現地へ派遣。</p> <p>* 専門家派遣では、農業指導や食生活改善の指導に加え、99年度援助事業の進捗状況の確認と事業全般の管理・調整にあたる。</p> <p>また、今後の取り組み等について、広く意見交換をする。</p>	00年1月
<p>(46) JICA（国際協力事業団）より、昨年に引き続き今年も農業研修員の農家実習受入れ依頼。</p>	00年2月
<p>(47) 専門家派遣報告会開催</p> <p>* みやぎ仙南農協角田地区青年部で実施したネパール研修と合同の報告会を開催。当日は関係者及び一般市民を交えながら、交流を深める。</p>	00年2月
<p>(48) 郵政省へ2000年度ボランティア貯金配分申請書提出</p> <p>北タイ山岳民族（ラフ族）の農業自立支援</p>	00年3月
<p>(49) 当会のNPO法人化について勉強会を開催</p> <p>今後具体的に検討していくことを確認する。</p>	00年5月
<p>(50) JICA（国際協力事業団）農業研修員の農家実習受入れ</p> <p>中南米・大洋州・アジア諸国10カ国の10名</p>	00年6月
<p>(51) 郵政省より2000年度の「国際ボランティア貯金」配分団体の認可を受ける。配分金額 101万3千円</p> <p>〔援助事業内容〕</p> <p>山岳少数民族のための農業研修施設の建設等〔タイ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 深井戸設備、飲料水用タンク設備、電気配電設備 専門家派遣 ・ 農業技術指導等 	00年6月
<p>(52) JICA（国際協力事業団）地方枠研修員要領作成</p> <p>「農村女性の起業家育成研修」をJICAより委託を受けて11月に実施予定。</p> <p>* タイ・イサーン地域で農村女性グループの縫製工場を指導・運</p>	00年7月

営している責任者 1 名を招聘し、縫製、デザイン等の短期（1
ヶ月）研修を予定。

(53) J I C A (国際協力事業団) 地方枠研修員事業「農村女性の起業
家育成研修」実施 00 年 11 月

(54) みやぎ仙南角田地区農協際においてタイコーナーを設置。 00 年 11 月

* 地域住民に「手をつなぐ会」の一連の活動を紹介 P R。

イサーン物産（草木染め・機織り縫製品）展示即売

J I C A 写真パネル展示

チャリティータイフード（トム・ヤン・クン）